

一 般 質 問

2番 笠原 進

1 地方創生の取組について

本町では現在、令和8年度からの「第3期湯河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略プラン」の策定が進められており、4月からのスタートを見据えた準備が進んでいるところです。

今後、議会においても、その内容や考え方について報告がなされるものと受け止めています。

そうした中、地方創生をより実効性のあるものとするため、本町では令和6年9月に地方創生統括官を新たに設置しました。

その後、令和7年度施政方針では、更なる地方創生を推進する旨が明記され、観光、産業、農業、新たな産業創出など、さまざまな取組が進められてきました。

併せて、令和8年の新年挨拶においても、町長ご自身から、これらの取組について一定の成果や手応えが語られたところです。

そこで、以下2点について伺います。

- (1) 人口減少への向き合い方について、町長は、現在の地方創生の取組を通じて、人口減少に対して目指しているのは、減少スピードを緩やかにすることなのか、社会増を目指すのか、あるいは人口規模の変化に適応した町づくりなのか、現時点での基本的な考え方をお聞かせください。
- (2) 地方創生統括官については、設置から約1年が経過しましたが、この間、地方創生の取組において、統括官の関与によって生まれた具体的な変化や成果をお聞かせください。

併せて、町として、地方創生統括官を設置した効果を、現時点でどのように評価・検証されているのか、お聞かせください。

1 下水管の老朽化対策について

下水道は日常生活を送る上で欠かすことのできない重要な基盤インフラです。湯河原町では昭和60年4月に供用が開始され、敷設後40年を超える管路が増えてきているものと認識しています。

近年、全国各地において下水道管の老朽化が一因とみられる道路陥没や汚水の溢れ出しといった事例が報道されています。

このような中、本町においても老朽化の現状を把握し、事故を未然に防ぐための計画的な対策が求められていると考え、次のとおり伺います。

(1) 現在、耐用年数が近づいている、または老朽化が進行している下水道管の総延長と、その割合について教えてください。

(2) 老朽化による事故を未然に防ぐためには、日常点検や調査が重要と考えます。

下水道管の点検・調査をどのような頻度・方法で実施しているのか、または今後の点検強化の考え方について聞かせてください。

(3) 下水道管の老朽化に起因する道路陥没等の事故を防ぐため、重点的に監視・更新すべきエリアは把握されているのか聞かせてください。

(4) 本町は「下水道ストックマネジメント計画」を策定し、計画的な更新を進めていると認識していますが、今後、更新時期が集中することで、財政的・人的負担の急増が懸念されます。計画どおり更新されているのか、また、遅れが生じている場合の対応について聞かせてください。

2 2025年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた教育施策について

2025年度全国学力・学習状況調査の報告書・集計結果によりますと、全国の小学校6年生では国語67.0%、算数58.2%、理科57.3%の平均正答率であり、

中学校3年生では国語54.6%、数学48.8%、理科 I R Tスコア505となっています。

特に文章題や図表活用、理科の思考力問題において全国的に正答率が低下しており、記述力・思考力育成が喫緊の課題とされています。

こうした全国的な傾向を受け、本町における小中学校の学力状況について、令和6年9月の一般質問に引き続き伺います。

- (1) 本町の小中学校における国語・算数（数学）・理科の平均正答率は、全国と比較してどうなっていますか。
- (2) 全国学力テストでは、地域間格差・家庭環境との関連が指摘されています。本町においても、学校間で学力に差が認められる場合、どのような対応策を講じていますか。
- (3) 全国的な課題である思考力・表現力の育成に向け、本町の小中学校では、授業改善やカリキュラム見直しがどのように行われていますか。
- (4) 文部科学省では、テレビゲーム及びスマートフォンの使用時間が長くなると正答率が低下する傾向があると指摘しています。

調査結果の分析・検証を踏まえ、教育施策の改善に向けた総合的かつ計画的な取組の要請が教育委員会にもされると思いますが、家庭でのデジタル機器の適正使用についての見解を聞かせていただくとともに、支援策や取組などがありましたら教えてください。

1 不妊治療に対する助成について

令和4年4月から、不妊治療の保険適用拡大により、人工授精、体外受精・顕微授精に健康保険が適用されました。

一方で、国の特定治療費助成制度は終了しています。

その後、神奈川県内では市町村によっては独自の助成金が出ており、おおむね1回の治療につき5万円となっています。

湯河原町ではどのようになっていますか。

2 ゆがわらこどもまんなかプランの推進について

湯河原町では2025年に「ゆがわらこどもまんなかプラン」を策定し、子どもを中心に捉えた施策を推進しています。

ユニセフが提唱する日本型子どもにやさしいまちづくり事業は、子どもの権利条約を基盤に、子どもの意見表明の保障や分野横断的な行政運営を重視するものであり、本町の計画と理念的に高い親和性があると考えます。

そこで、本町としての認識と今後の考えについて伺います。

- (1) 「ゆがわらこどもまんなかプラン」は、子どもの権利条約の理念をどのように反映されているのかお聞かせください。
- (2) 子どもの意思表示や参画の確保という観点から、本町のプランと「ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業」には、共通点があると認識していますが、ご見解をお聞かせください。
- (3) 県内を含め導入している自治体がありますが、本町として「ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業」を導入し、「ゆがわらこどもまんなかプラン」の推進に活用していく考えはあるか、お聞かせください。

3 コキアの郷事業について

2019年から始まった「コキアの郷事業」は、観光資源として順調な進捗とは言いがたく、今後も予算増大が懸念されます。

そこで、次のとおり伺います。

- (1) 今後の事業計画及び観光資源としての可能性について、考えをお聞かせください。
- (2) 事業の中止が可能であるとすれば、どの時期、どのタイミングで決断しますか。

1 湯河原十景を中心にした文化振興・観光振興について

本町では、現代日本画家・平松礼二画伯が、2016年から湯河原町内各地を残したい風景としてスケッチし、20点を超える作品が出来上がったため、その中から「永遠の四季彩～あなたが選ぶ湯河原十景」というテーマで町立美術館に来館された方の投票結果を参考に、十景を選ぶ趣向は多くの方に強いインパクトを与えました。

そこで何点か質問させていただきます。

- (1) 改めて、湯河原十景を平松画伯に描いていただいた経緯を教えてください。
- (2) 湯河原十景をスケッチされた位置を正確に把握されていればお示ください。
- (3) 湯河原十景を中心にしたイベントや企画でこの2年間で開催されたものがあれば教えてください。
- (4) 今後、湯河原十景を活用して、町への誇りを持ってもらえるイベントや企画のお考えがあれば教えてください。
- (5) 湯河原十景は貴重な観光資源と考えています。
湯河原十景をテーマにした観光ルートの整備と地域振興に寄与する施策の展望がありましたら教えてください。

1 地域会館の運用方法について

住民自治の醸成と災害などに対応するための防災意識の向上には地域会館の存在が重要であるとの見地から質問いたします。

- (1) 区会の事務所は主として地域会館に置かれている状況ですが、地域会館のない地区の区会事務所はどこに在りますか。
- (2) 災害が発生した場合などの地域会館の開錠所管課とその際の流れについてお聞かせください。
- (3) 地域会館の鍵がスマートロック式になりました。導入前後で地域会館利用状況の変化はありましたか。また、区会事務所としての機能と運用はスマートロック式になっても変わりませんか。
- (4) 地域会館の使用料の支払い期限は、使用日の5日前となっておりますが、納付後に使用取消しをした場合、払戻しなどに不都合は生じていませんか。
- (5) 地域会館の鍵は、物理キーを取り出して開けるキーボックス方式と、直接パスワードを打ち込んで開けるタッチパネル方式がありますが、タッチパネル方式の地域会館は何か所ですか。
なお、タッチパネル方式ですと、集合する時間により再び開錠しなければならない不便さがありますが、利用者の声は届いていますか。
- (6) 地域会館の使用は湯河原町福社会館条例及び同施行規則に基づき運用されていますが、会議室等の利用者以外が利用できなくなった経緯をお示しください。

(7) 湯河原町では、町民が自由に入退館し、小休憩や談笑する場所がほとんどありません。

地域会館はそのような受け皿として機能できるのではないかと考えるとともに、町民の暮らしの一部として今後も考えていくべきではないかと考えます。

新庁舎建設の検討を進めている今、住民の自治意識を高め、地域に密着した暮らしを進めるため、地域会館の運用方法については課題として受け止めてほしいと思いますが、町長のお考えを聞かせてください。